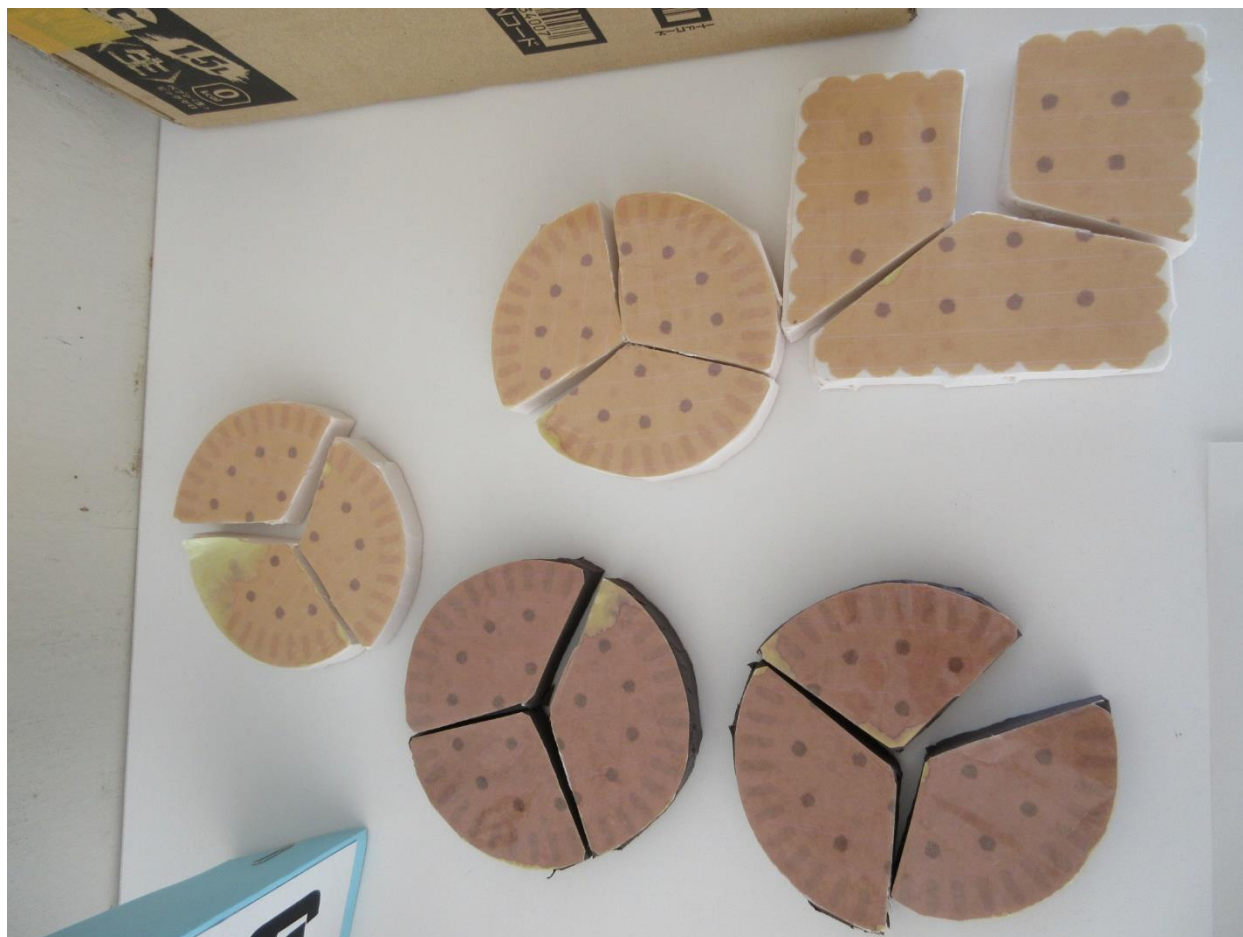




団体名：小学部 2・3・5 年
教材の名称：ふしぎなポケット
使用目的：歌「ふしぎなポケット」に合わせ、ポケットからビスケットを 1 つずつ取り出す活動を通して数 概念の素地を育むとともに、目の前に提示された物を注視したり、「ポケットを叩く⇒ビスケット が出る」という因果関係の理解から見通しをもって活動に取り組んだりする力を育む。
教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他) 歌「ふしぎなポケット」に合わせて、教員が持っているポケットを児童が叩くことでビスケットの欠片が一つ つ出てくる活動をおこなった。欠片が 3 つ揃うことで 1 つのビスケットが完成する形となっている。 使用場面は「言葉・数」の授業の終わりに常時活動として毎時間おこなった。毎時間繰り返し取り組んだこ とで、ポケットを見ただけで手拍子を始める児童や活動が始まる前からポケット自体を注視する反応が見られ、見 通しをもちながら活動に取り組む姿が見られるようになった。ビスケットに厚みをもたせることで、児童が教員 から受けとる際に握りやすくなるようにした。



団体名：小学部1年

教材の名称： てぶくろマレット

使用目的：マレットを持たない児童が、木琴や鉄琴を自分で鳴らせるようにするもの

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

音楽の授業で木琴や鉄琴を演奏するときに、マレットを握る力が未発達の子どものために作りました。マレットを握った手を、バンダナやシュシュを使って固定する方法もありますが、手袋に直接ウッドビーズを縫い付けることで、自分の手で直接木琴や鉄琴を鳴らしている感覚が持てるため、自分で音を出せた達成感を味わうことができます。

工夫点としては、5本の指のすべてにウッドビーズを取り付けることで、どの位置が当たっても音が鳴りやすいようにしました。



団体名：小学部 2・3・5 年

教材の名称： もぐらたたき

使用目的： 「生活」の授業 単元 『夏祭り』

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

- ・ 輪ゴムを使うことで、もぐらが上下に動くようにした。(触覚)
⇒ 感触が面白く、手を伸ばして触れていた。
- ・ 音を楽しむ児童が多いので、ピコピコハンマーを使用した。(聴覚)
⇒ ピコッと音がするとまばたきをして反応を示していた。
- ・ カラフルに顔もはっきりとさせた。(視覚)
⇒ じっと見るなど興味を示していた。



団体名：小学部1年

教材の名称： センサリーボトル

使用目的：五感の発達、クールダウン

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

ボトルの中に、保冷剤と水を1：2くらいの割合で入れて作りました。（このくらいの割合が、中に入っているビーズやラメが程よく落ちたり浮かんだりしていきます。他、ベビーオイルや洗濯のりでも代用可能です。）

ゆっくりと動くラメを追視したり、傾けた時の水の重さや音を感じたりすることで、感覚の発達を促します。また、興奮したりかんしゃくを起こしたりしているときに、ゆらゆらと動くラメを眺めることで、心を落ち着かせる効果が期待できます。

誤飲防止のため、ボトルの口は接着剤とビニールテープで留めています。



団体名：中学部1年

教材の名称：カラフルスカーフパラシュート

使用目的： 沢山の色や音、ゆっくりと動く様子の変化を目や耳や肌で感じる。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

- ・「にじ」や沢山の色をテーマにした単元で用いました。ゆっくりと降りてくるスカーフの動きや鈴の音、またパラシュートの上に紙吹雪や風船を乗せると透けて見える様子に目をぱっちり、よく見たり触れようと手を伸ばしたりしながら取り組みました。
- ・よく用いるパラシュートでは、降りてきたときに頭に触れる衝撃が強く感じられることがあります。頸椎へのダメージのリスク回避や肌あたりなどを考え、視覚障害を有する方も気配を感じられるように鈴をつけてみました。



団体名：中学部１年
教材の名称： 巨大ステッキー
使用目的： 色のマッチング、目と手の協応
教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他) ・教材を大きくすることでスティックを抜く、倒れる動きを分かりやすくした。 ・iPad のルーレットアプリを使ってランダムに色を決め、ルーレットで出た色とスティックの色を確認しながら取り組んだ。 ・スティックを引っ張ることが難しい場合は、クリップのついた取っ手を用意し、補助をしながら取り組んだ。



団体名：中学部 1 年

教材の名称： ポコポコチェーン

使用目的： 片手で教材を持ち支えながら、もう片方の手でチェーンを引っ張り伸ばす。
手応えを感じながら、左右の分化や腕を大きく広げ動かすことを目標にしています。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

- ・ 4 月から 5 月にかけては、片手で持ちながら振って音を鳴らして遊ぶことが多かったのですが、6 月頃から片手で容器を持ち、もう片方の手で引っ張ってポコポコチェーンが出てくるときの手応えを感じながら引っ張り出す遊びに移行してきました。
- ・引っ張り出す際、引っかかって手応えを感じられるよう、切れ込みを入れています。
- ・ 上から吊り下げて視線と腕を上へ向けて引っ張り出すのも有効です。
どうしたら引っ張り出せるか探しているところです。→





団体名： 技能員 岡野さん作 （中学部２・３が主に使用）	
教材の名称： スイッチでバイク	
使用目的： スイッチの因果関係を学ぶ	
教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他） ・スイッチを押すと車椅子ごと牽引してくれるので、スイッチを押すと前進するという因果関係を楽しく学ぶことができました。昼休みはバイクを運転して校内のパトロールを行っています！校内の安全確認を校長室と大好きな保健室へ報告しています！！ ※参考文献は校内の職員図書コーナーにあります	



団体名： 中学部2・3年

教材の名称： 防災クッション

使用目的： 災害時の避難所での生活や身近なものを活用する方法を知る

教材の説明： (効果が認められた点、工夫した点、その他)

- ・ 災害時の避難所での生活を想定し、身の回りのもので作れる防災クッションを作りました。
- ・ 新聞紙をちぎる、丸める、袋に入れる、という簡単な工程で身体の動きに制限のある生徒でも無理なく取り組むことができました。また、新聞の感触を楽しむ生徒が多く見られました。
- ・ 完成したものにタオルを敷いて実際にクッションとして使用することができました。

使用したもの➡新聞紙、ビニール袋



団体名：中学部２・３年

教材の名称： 誕生日ケーキ

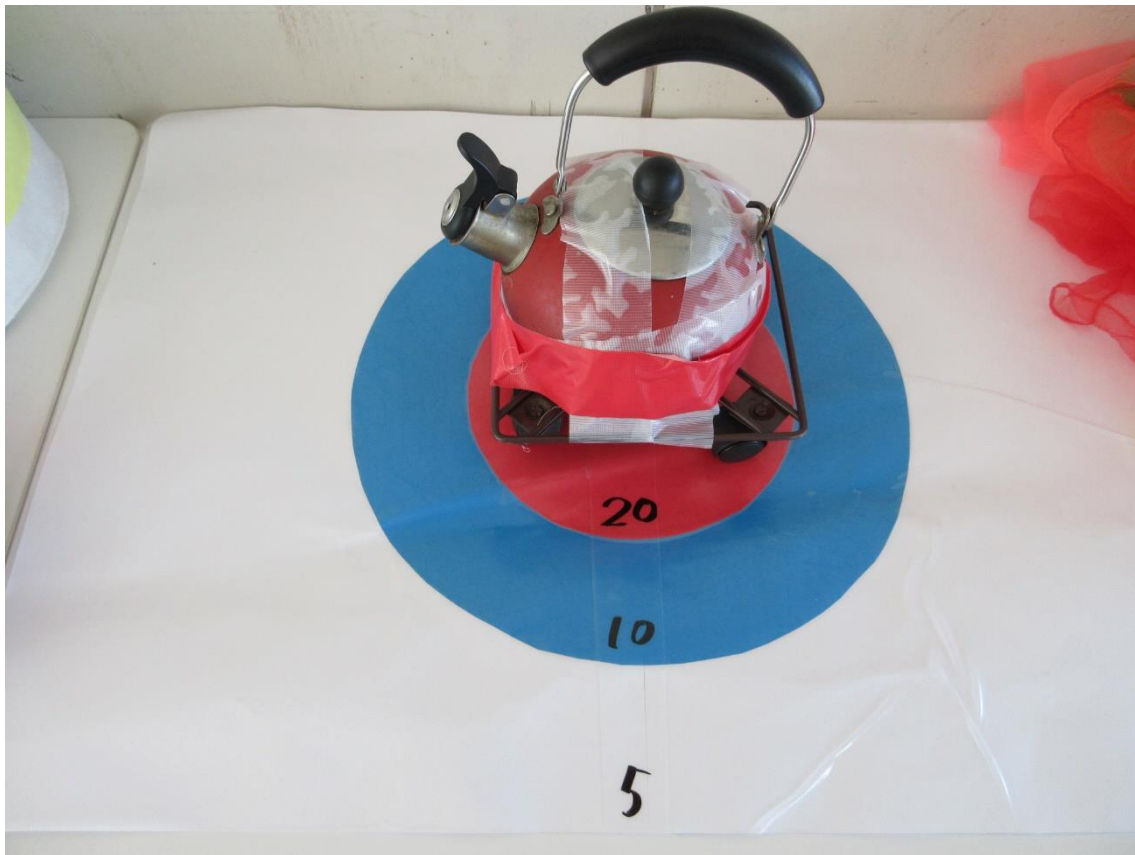
使用目的： 誕生日会で雰囲気を盛り上げ笑顔にする。

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

誕生日会では、ケーキを飾るトッピングを友だちにらせてもらいました。友だちと関わりながらオリジナルデコレーションケーキをみんなで完成させ、楽しい雰囲気を感じることができました。工夫した点は、トッピングを持ちやすい大きさ、固さにすることと強力な磁石の中に入れることでケーキにトッピングがしっかりくっつくように制作したことです。

スポンジケーキの材料：片面段ボール、磁石、木工ボンド、フェルト

トッピングの材料：磁石、綿、フェルト、刺繍糸



団体名： 中学部 2・3 年

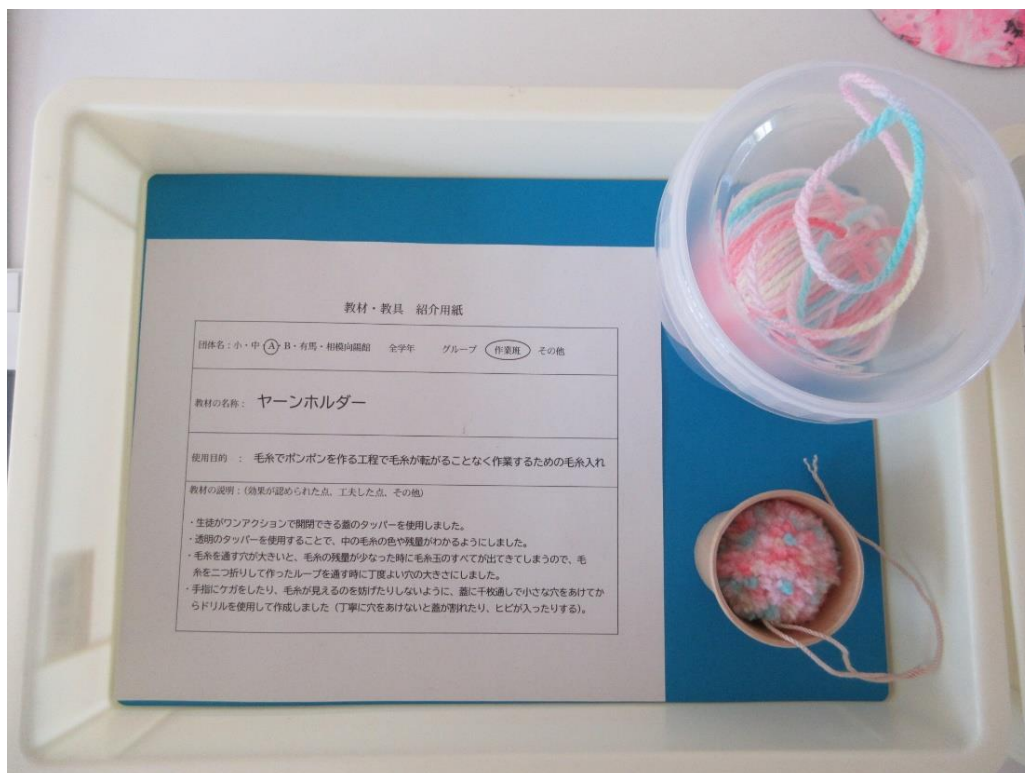
教材の名称： **冬季オリンピック カーリングを体験しよう！！**

使用目的： オリンピックを体験



教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

・2026 年の冬季オリンピック開催中に、生活単元学習で使用しました。生徒の実態に応じて傾斜台を用意してアツい戦いを行いました。



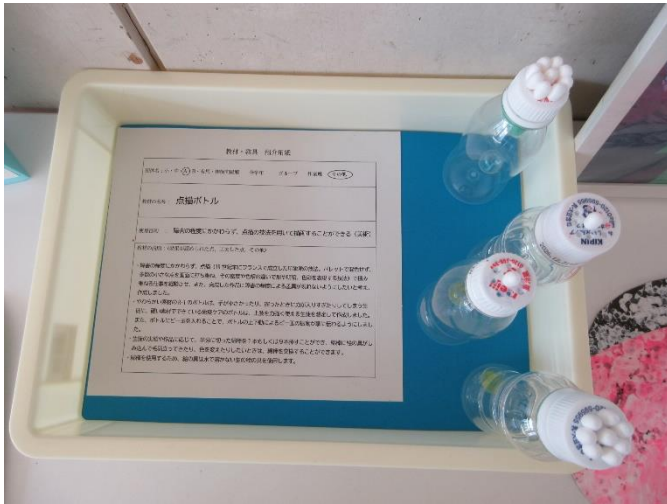
団体名：高等部 A（肢体不自由教育部門） 作業班

教材の名称： ヤーンホルダー

使用目的： 毛糸でポンポンを作る工程で毛糸が転がることなく作業するための毛糸入れ

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

- ・生徒がワンアクションで開閉できる蓋のタッパーを使用しました。
- ・透明のタッパーを使用することで、中の毛糸の色や残量がわかるようにしました。
- ・毛糸を通す穴が大きいと、毛糸の残量が少なった時に毛糸玉のすべてが出てきてしまうので、毛糸を二つ折りして作ったループを通す時に丁度よい穴の大きさにしました。
- ・手指にケガをしたり、毛糸が見えるのを妨げたりしないように、蓋に千枚通しで小さな穴をあけてからドリルを使用して作成しました（丁寧に穴をあけないと蓋が割れたり、ヒビが入ったりする）。



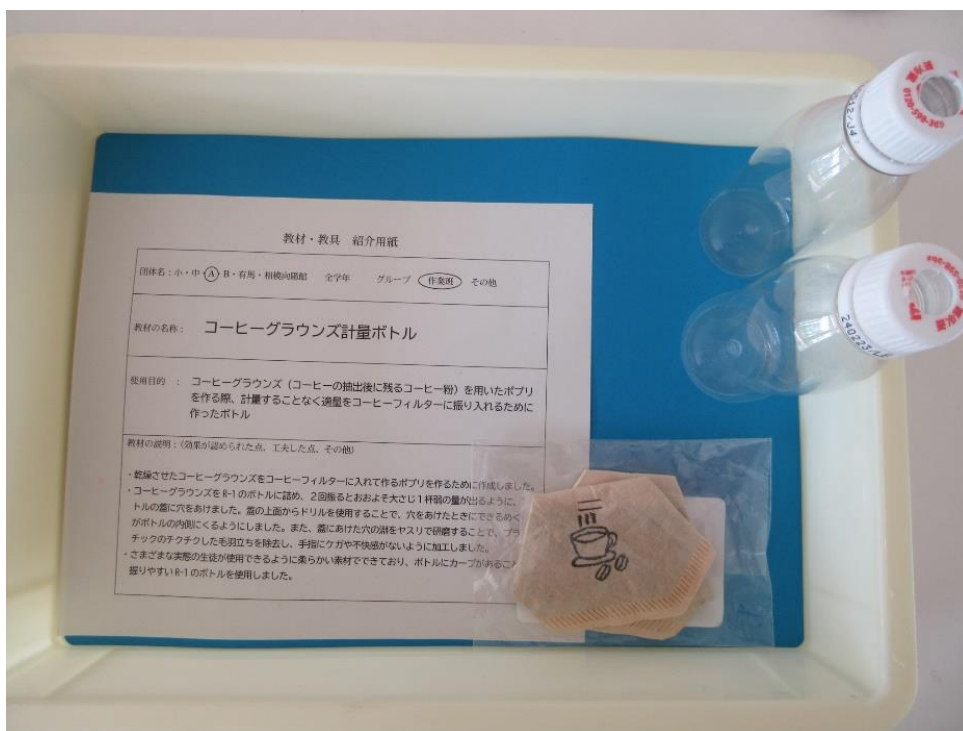
団体名：高等部 A（肢体不自由教育部門）

教材の名称： 点描ボトル

使用目的： 障害の程度にかかわらず、点描の技法を用いて描画することができる（美術）

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

- ・ 障害の程度にかかわらず、点描（19 世紀末にフランスで成立した印象派の技法。パレットで混色せず、多数の小さな点を画面に打ち重ね、その密度や色相の違いで形や明暗、色彩を表現する技法）で積み重ねる仕事を経験させ、また、完成した作品に障害の程度による差異が現れないようにしたいと考え、作成しました。
- ・ やわらかい素材の R-1 のボトルは、手が小さかったり、握ったときに力が入りすぎたりしてしまう生徒に、硬い素材でできている免疫ケアのボトルは、上肢を力強く使える生徒を想定して作成しました。また、ボトルにビー玉を入れることで、ボトルの上下動によるビー玉の振動が掌に伝わるようにしました。
- ・ 生徒の実態や作品に応じて、半分に切った綿棒を 1 本もしくは 9 本挿すことができ、綿棒に絵の具がしみ込んで毛羽立ってきたり、色を変えたりしたいときは、綿棒を交換することができます。
- ・ 綿棒を使用するため、絵の具は水で溶かない生の絵の具を使用します。



団体名：高等部 A（肢体不自由教育部門）作業班

教材の名称： コーヒーグラウンズ計量ボトル

使用目的： コーヒーグラウンズ（コーヒーの抽出後に残るコーヒー粉）を用いたポプリを作る際、計量することなく適量をコーヒーフィルターに振り入れるために作ったボトル

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

- ・乾燥させたコーヒーグラウンズをコーヒーフィルターに入れて作るポプリを作るために作成しました。
- ・コーヒーグラウンズを R-1 のボトルに詰め、2 回振るとおおよそ大さじ 1 杯弱の量が出るように、ボトルの蓋に穴をあけました。蓋の上面からドリルを使用することで、穴をあけたときにできるめくれがボトルの内側にくるようにしました。また、蓋にあけた穴の淵をヤスリで研磨することで、プラスチックのチクチクした毛羽立ちを除去し、手指にケガや不快感がないように加工しました。
- ・さまざまな実態の生徒が使用できるように柔らかい素材でできており、ボトルにカーブがあることで握りやすい R-1 のボトルを使用しました。



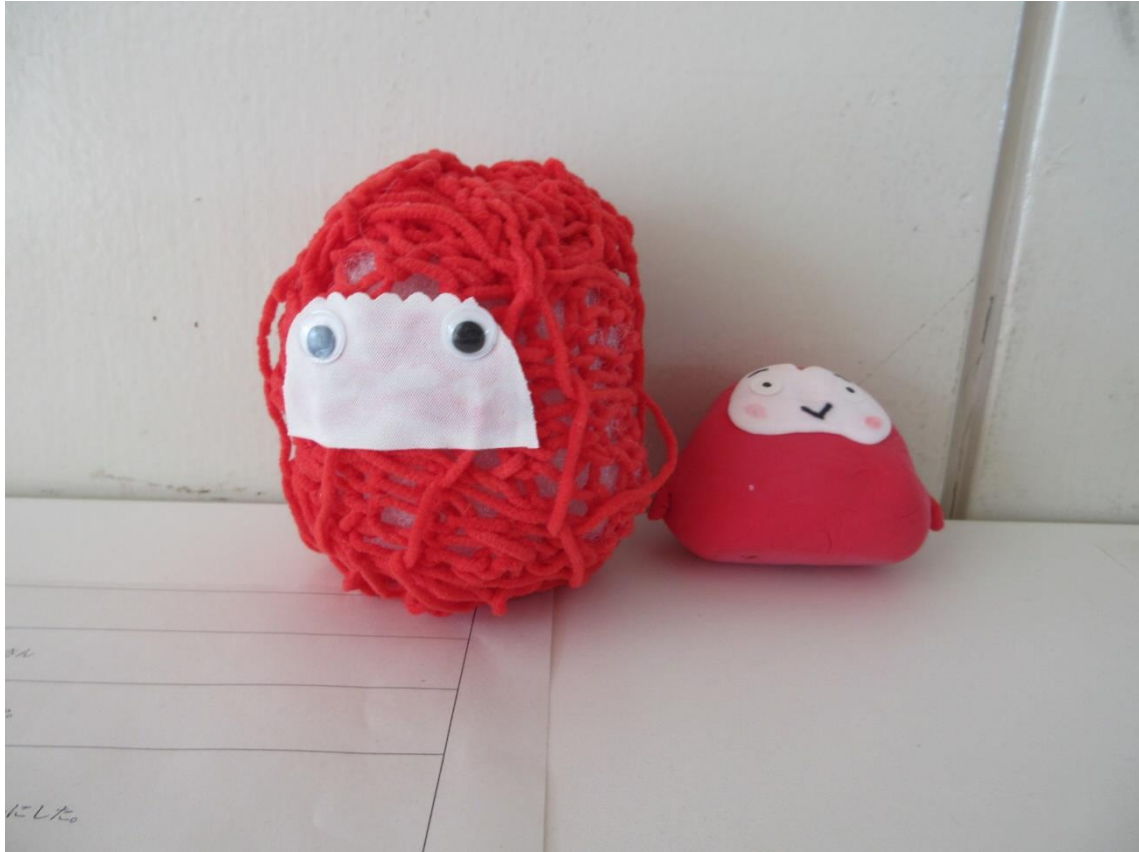
団体名： 訪問

教材の名称： 『はなのみち』を作ろう

使用目的： 『はなのみち』というお話の内容に沿って、はなのみちを作る。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

お話に登場するクマと友達の家の中に、パイロンテープがあり、ペタペタの感触がする所にお花を貼っていくと、はなのみちができる。



団体名： 訪問

教材の名称： 『だるまさんが』のだるまさん

使用目的： だるまさんにふれながら絵本を楽しむ。

教材の説明： (効果が認められた点、工夫した点、その他)

『びよーん』『ぷしゅっ』となる手のひらサイズのだるまさんにした。



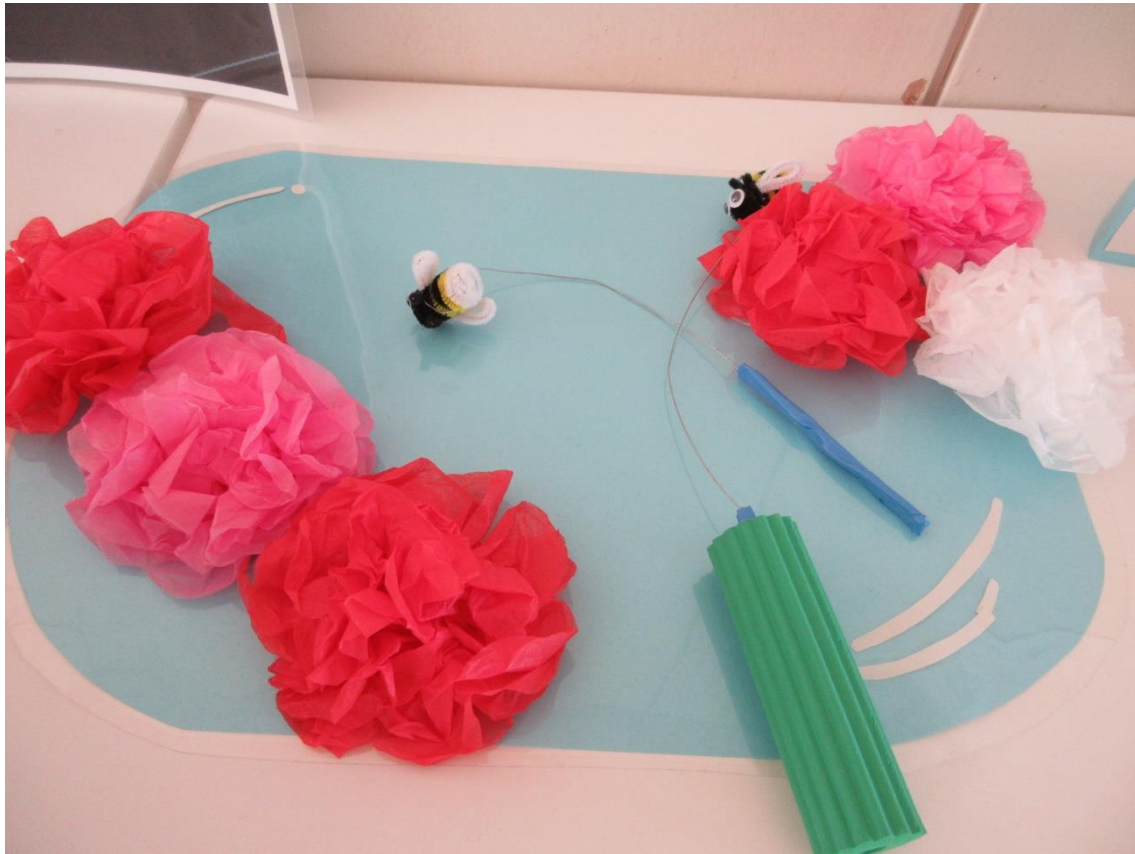
団体名： 訪問

教材の名称： スイッチでポンポン作り

使用目的：スイッチ操作で毛糸のポンポンを作る作業を行う。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

- ・スイッチを押すと台（ミラーボール）が回り、毛糸を巻き取る。
- ・校内実習で使用した。



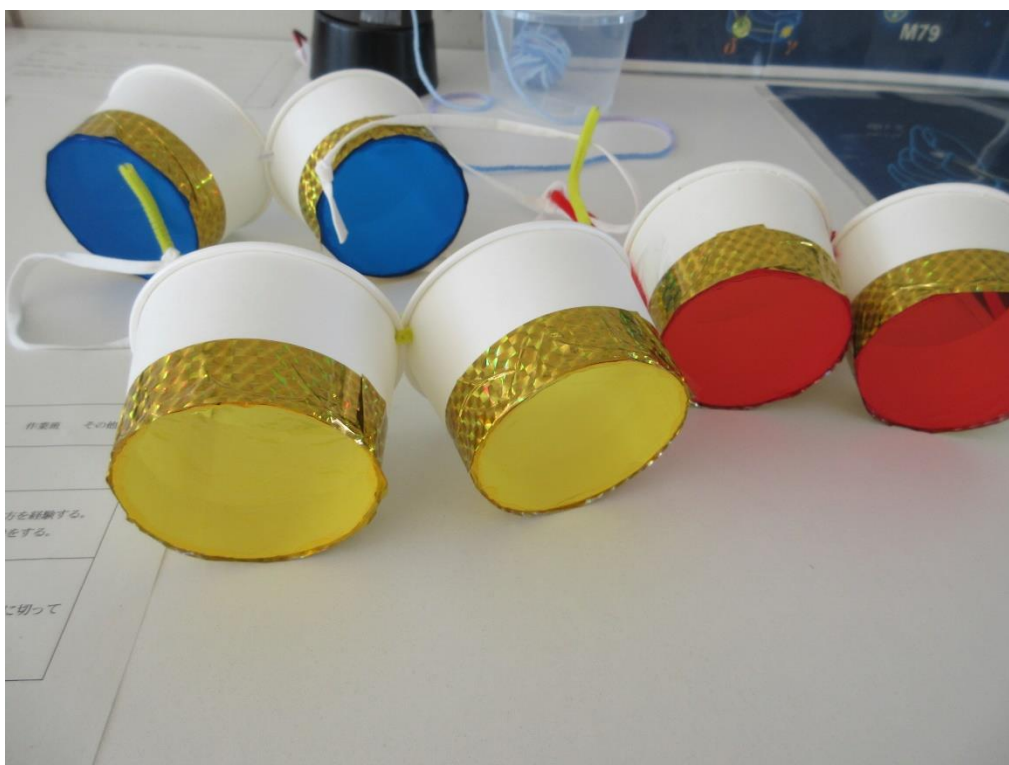
団体名：訪問

教材の名称： ぶんぶんぶん

使用目的：・触って確認したり、イメージを持ったりする。
・物を操作することで、歌のイメージを感じ取る。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

- ・モールでハチを作ること、手や額に触れた時にチクチクとした感触を感じられる。
- ・本人がしっかり握れる太さの持ち手を付け、ハチが揺れてその振動が持ち手に伝わるような長さの針金にした。
- ・歌の世界のイメージを持てるようにするために、歌詞に合わせてハチを動かしたり、花を置いていったりした。



団体名：訪問

教材の名称： とんぼのめがね

使用目的：・水色や黄色、赤色の『とんぼのめがね』をかけて、いつもと違う見え方を体験する。
・歌詞に合わせた色の『とんぼのめがね』をかけて、歌の世界に浸る体験をする。

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

- ・『とんぼのめがね』をかけることで、いつもと違う見え方を体験できる。
- ・紙コップを材料にして、顔に当たる部分がコップの飲み口側（丸くなっている方）になるように切
って作った。また、つるやブリッジの部分は肌に当たっても痛くない様にモールで作った。
- ・目の高さに固定するため、つるの耳にかける部分に平ゴムを付けて調整できるようにした。



団体名：訪問

教材の名称： 『ほしつるよる』ボックス

使用目的： ・星を釣り、星座をつくるという絵本の内容に合わせた体験をする。

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

- ・星形のライトに磁石を付け、つりざおで釣ったり、ゴムに指をひっかけて取ったりと実態に合わせて活動できるようにした。ボックスタイプも児童生徒に合わせて選べるようにした。



団体名：高等部 B（知的障害教育部門） 1 年

教材の名称：スケジュールバー

使用目的：その日の日課や自分が取り組むことを確認する。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

<教材について>

イラストと文字を組み合わせることで各教科のカードや日課の中で取り組むカードをそれぞれ作成し、その日の日課に合わせて組み合わせることができるようにした。

<生徒の実態>

文字や言葉による説明、指示だけでは、途中で手が止まってしまう。また、指示待ちの様子が見受けられた。

<工夫した点>

教室に入ってから下校まで自分が取り組むことを一つひとつその日の日課に合わせて視覚化しました。イラストと文字を組み合わせることでその活動のイメージが持てるようにしています。一つひとつのカードにマジックテープを施しました。その時間の授業や自分の取り組んでいることを終わるとカードをスケジュールバーから外し、かごに入れられるようにしています。自分が今この瞬間にやらなければならないことは何か。次に何をしなければならないか。スケジュールバーで明確に示すことで意識をもたせ、行動を促し、習慣にする。生徒の自立と自律を求めました。

<効果等>

言葉かけがなくてもスケジュールバーで自分が取り組むことやその日の日課を確認し、生徒本人が自分から行動できるようになりました。



団体名： 高等部 B（知的障害教育部門） 1 年

教材の名称：紐結び練習器

使用目的：固結びやちょう結びの練習

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

<教材について>

職業・自立の時間の緑と黄色グループでは、紐を結ぶことが苦手な生徒が多く、バンダナやエプロンを自分で身に付けることや靴紐などを結ぶことが難しい。

そのため、紐を結ぶ練習をするための教材・教具である。かごに赤と青の紐を取り付けて、紐を交差させたり、輪を作ったりしながらちょう結びや固結びの手順を繰り返し練習できる。

<生徒の実態>

手指の巧緻性に課題があり、細かな指先の操作が苦手である。

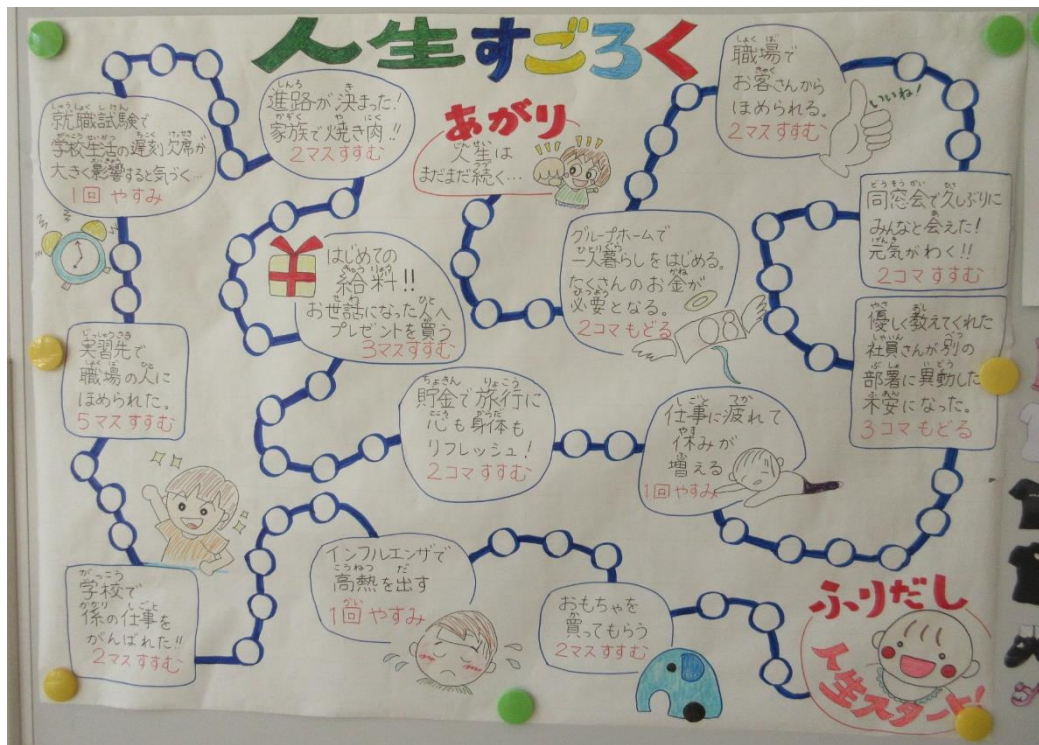
紐を交差させることはできるが、輪を作ったり、紐を通したりする一連の動作は一人で行うことが難しい。手順を一つずつ提示したり、見本を示したりすることで落ち着いて取り組むことができる。

<工夫した点>

紐を太くし、紐の色を赤と青で分けることで左右の紐や操作する順番が分かりやすくなり、生徒が視覚的に確認しながら取り組めるようにした。また、机上で安定して操作できるようなかごを使用している。1つのかごで3回練習ができるようにし、終わったら報告するという流れで見通しを持てるようにしている。

<効果等>

実際のエプロンでは、紐を結ぶことが難しくて意欲が持ちにくい生徒でも、練習器なら固結びに取り組むことができた。結んだあとの紐をほどくのもよい練習課題になっていた。給食配膳や校内実習での身支度では、自分でバンダナやエプロンをつけられる生徒も見られるようになった。



団体名：高等部 B（知的障害教育部門） 2 年 （校内実習）
教材の名称： 人生すごろく
使用目的： 自己理解やライフキャリアについての学習
教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他） 少人数（7名程度）で「自己理解・ライフキャリア」を学習するグループ（2週間の校内実習） 効果が認められた点 ・現場実習や卒業後の具体的な日常の事例が分かったと生徒がコメントしていた。 ・卒業後に「初めての給料でお世話になった人にプレゼントした（すごろくの内容）」事例があった。 工夫した点 ・すごろくの内容については、担当教員だけでなく、進路担当も協力してより実際の事例に近づけて作成した。また、生徒にも事例は実際にあったこととして伝えた。 ・進路の学習で伝えたい内容を楽しみながらできるようにゲームの形にした。 ・参加者がよく見えるように、すごろくを模造紙にホワイトボードに貼るようにし、コマもマグネットにした。



団体名：高等部 B（知的障害教育部門） 2 年 （性教育）

教材の名称：好きな服を着せ替える教材

使用目的：短いスカートやズボンを着用するときはレギンスを重ねることで大切な体を守る（露出を避ける、冷え対策）

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

高等部女子の性教育の授業（少人数グループでの学習 座学の後に手を動かしながら好きなファッションを発表する）

効果が認められた点

- ・体を冷やさないことで生理痛が和らぐ、下着が他の人に見えないようにする等のコメントを授業以外の場面でも言っていた。
- ・遠足の場面で学んだことを意識した服装をしてきたと数名の女子生徒が報告した。

工夫した点

- ・好みの女の子を選べるようにした。
- ・服の種類を多く用意するだけでなく、靴や帽子、ぬいぐるみ等も準備した。
- ・重ね履きの順序を意識できるようにパーツを準備した。
- ・楽しく服装について（重ね履き）学習できるように着せ替え人形に近づけた教材とした。



団体名：高等部 B（知的障害教育部門） 3 年

教材の名称： OMG 表

使用目的：生徒が時間を守れるようにするための表

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

・日課をすごろくのように進めていく。時間を守れなかった場合は【OMG エリア】に磁石を動かさなければならぬ。

・この教材を使うことで、本人のモチベーションに繋がっている。

＜ 工夫した点 ＞

・本人が好きなキャラクターを使っている。

・【OMG エリア】には好きなキャラクターが泣いてしまっている画像を使用している。



足し算(1) 日にち: 月 日 名前

・足し算のことを(加・減・乗・除)法という。

・足し算の答えのことを(和・差・積・商)という。

★計算をする時に電卓を使ってもOKです。

① 1～10まで足すといくつになりますか

式:

答え

② 工夫をして、1～10まで足してみよう

式:

答え

【先生からの提案】

式:

答え

★足し算は を入れ替えて計算してもよい

団体名：有馬分教室 1年
教材の名称：数学
使用目的：授業時の説明や生徒が課題（問題プリント）を解答する時に使用
教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他） Google スライドで授業の流れや生徒が解く課題（問題プリント）を表示し、解答を発表する生徒が画面上に解答を記入するので、生徒が確認しやすい。課題(プリント)がはやく終わった人は『リトルティーチャー』として教えることに意欲をもって取り組んでいる。順番に解答をしていくが、教員や『リトルティーチャー』が解答を確認してから発表するので、自信を持って発表することができる。



団体名：有馬分教室 2年

教材の名称：生成 AI を活用したパワーポイントと、意見交換を促す発表

使用目的：情報の授業でパワーポイントづくりを行った。

その際、周りの興味関心を引きやすいスライドづくりと発表方法を考えたときに生成 AI と Canva を活用した。

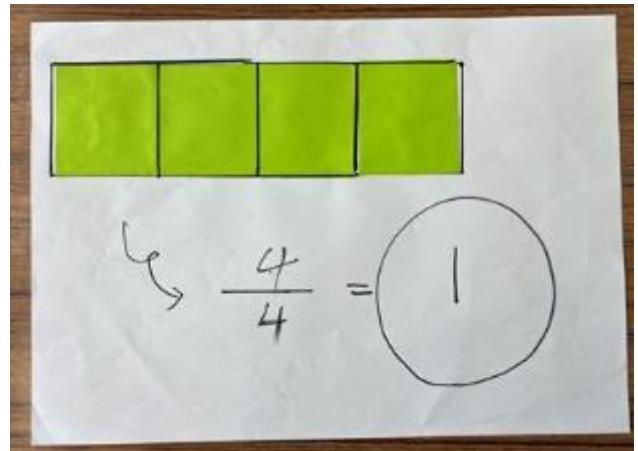
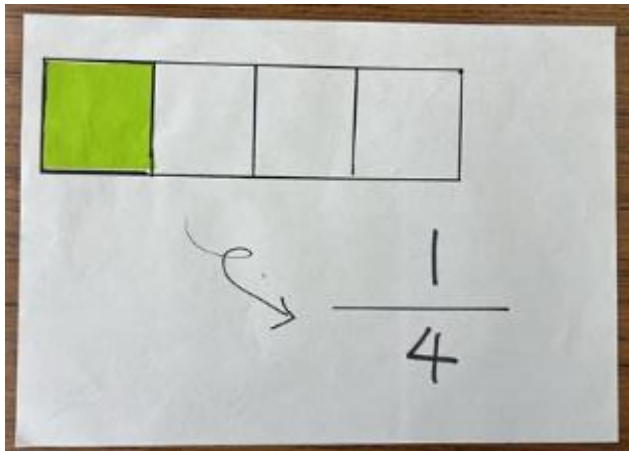
教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

実態として、パソコン操作は不慣れな生徒が多く、パワーポイントを使った作業は文字を入力する経験をしたことがある程度である。また発表が苦手だったり、意見を出したりするのが苦手な生徒も在籍している。

生成 AI Copilot を使い、スライドに挿入する素材を自分で作成して、パワーポイントに工夫を加えた。

また、作成したアイコンをもとにさらに指示をして、自分のアイコンが趣味のことに取り組んでいる画像を作った。Copilot に指示する文は自分たちで考えて、何度も改良を重ねる様子が見られた。スライドに作成した素材を挿入し、周りの興味を引くスライドづくりができた。

発表には Canva のホワイトボード機能を使い、作成したスライドをお互いにリアルタイムでお互いに感想を述べる場を設けた。普段、発言が乏しい生徒にも積極的にコメントを残す様子が見られた。また、言葉を考えるのが苦手な生徒はスタンプ機能を使い、気持ちを伝えることができた。



団体名：有馬分教室 3年

教材の名称： 数学 分数の説明

使用目的：数学の分数の授業で視覚的に分かるようにするため

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

1/2, 1/3, 1/4 という概念を見た目で、わかりやすく理解することができていた。
「これは何分の1でしょう？」という質問に全員が 「はい」と挙手していた。
そのあとの同じ分母同士の足し算、引き算の理解へもつながった。



団体名：相模向陽館分教室 1年（家庭科）

教材の名称： カロリーフラッシュカード

使用目的：身近な食べ物、飲み物のカロリーを意識する。

教材の説明：（効果が認められた点、工夫した点、その他）

家庭科の授業で、自身の必要なカロリー、栄養の摂取量を学んだ。運動量や日常生活と照らし合わせて必要なカロリーはひとそれぞれ違う。何をどれだけ食べるか、飲むか。自分で考えて食生活を営むことができるように、身近な食品のカロリーカードを作った。毎回の授業の中で5分程度行う。フラッシュカードのようにすばやく提示し、チーム形式でクイズゲームのように実施する。すばやく答えなければならないので、班員同士考えを言葉にする必要がある。「油っぽいから高カロリーだ」「この味はさっぱりしてるから40kcalくらいかな？」など、実際の食品と、カロリーの結びつきの感覚が徐々に良くなっていった。くりかえすことにより知識が定着し、「1日の自分の摂取すべきカロリーは？」「俺は3000kcal！」「おやつは1日何kcalまで？」「200kcal！」などというやりとりができるようになってきた。昼のお弁当の時間は生徒同士でコンビニ弁当のラベルを見ながら「俺の弁当今日〇〇kcalだ」「たんぱくしつ多いね」という会話が聞こえている。食への意識の向上につながっている。

お礼状書きに向けた 準備

①実習先(正式名称)

②時候の挨拶

③実習期間
月 日から 月 日の 日割

④実習で印象に残っていること
ほめられたこと、うまくできたこと、できるようになったこと、頑張ったこと 等

⑤これから頑張りたいこと

団体名：相模向陽館分教室 2年
教材の名称： お礼状ワークシート
使用目的：現場実習後のお礼状作成の時間を短縮するために、下書きを考えやすくなるようにした。
教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他) <生徒の実態> 文章を考えたり、直筆で書くことに対して苦手意識を持つ生徒が多い。そのため、実習で経験した感想や学んだことをまとめてお礼状として形にするまでに時間がかかる生徒が多い。 <工夫> 1枚目のワークシートAでは項目ごとに箇条書きで内容を書けるようにし、2枚目のワークシートBで文章化していくようにした。文章化の際には【項目名】がワークシートAとリンクするようにし、どこに何を書けばよいかわかるようにした。 <効果> 下書きはchromebookを使って書けるようにすることで、内容に集中させることができた。その結果、下書き完成までの時間を短縮することができ、苦手な直筆での清書書きを落ち着いて取り組ませることができた。

団体名：相模向陽館分教室 3年

教材の名称：帰着連絡用スプレッドシート

使用目的：現場実習の際、電話での帰着連絡が難しい生徒のため、スプレッドシートへの入力で取り組めるようにした。

教材の説明：(効果が認められた点、工夫した点、その他)

<生徒の実態>

この教材を使用した生徒は学校での発語がほとんどない。教員が出した選択肢に対してうなずきや表情、手を振る、書字などで自分の気持ちを表出している。しかし字を書くことにはやや抵抗がある。数学など、答えが1つしかないものに対しては回答することができるが、自分の意見や感想、相手の気持ちなど、表現やとらえ方が様々あるものについては、自分のことがあまりよくわからないことや自信のなさ、勘違いされたくないという気持ちから表出にかなりの時間がかかる。PC操作やタイピングは該当生徒にとって少し自信がある活動であり、タイピングゲームの「寿司打」にもよく取り組んでいる。

これまでの電話での帰着連絡は声が小さく、どのような内容の報告をしているか聞き取ることができていなかった。そのため教員からのフィードバックもしにくい状況であった。

<工夫した点・教材の効果>

スプレッドシートを用いることで、帰宅時刻や活動内容などを自分で入力して報告することができた。報告自体がめんどうなもの、というとらえにならないように、自分の気持ちや考えを書く部分である「作業内容が自分に向いていたか」、「実習の目標が達成できたかどうか」はプルダウン式で回答できるようにした。実習の感想やプルダウン式の部分は、帰着連絡時に回答がないこともあったが、実習後の振り返り時に教員と一緒に入力したり、できなかった理由を答えたりすることができた。このように、目標に対しての自己評価や、感想を記入する箇所を入れていることで、振り返りやお礼状の作成でも活用することができた。

また、編集している状況を学校の端末から確認することができるため、記入に時間がかかっている日があることを把握することもできた。

この教材のほかにも、実習先を決めるためのアンケートや振り返りの記入、お礼状の作成もICTを活用して行っている。実習において自分の気持ちを表出することは普段よりネガティブな印象があったが、「別のところでも実習をしてみたい」、「今後必要な力は通うための体力」など前向きな気持ちの表出がみられるようになった。

<帰着連絡用スプレッドシート>

	名	コロンボート大和①	コロンボート大和②	コロンボート大和③
月日	6月2日	6月10日		
自宅について時間	15:20	12:30	15:30	15:30
今日の作業	・入力作業 ・売っている ・グループワーク ・荷いていない ・全日活動（散歩） ・荷いている ・	しゃべり場 ・ ・ ・ ・ ・	リサーチ ウォーキング ・ ・ ・ ・	リフレクション ・ ・ ・ ・ ・ ・
実習先から				
目標の振り返り① どんなことができた？	・できることを見つけることができた グループワークの場にいれた	・できることが見つけられなが...	・できることが見つけられなが...	・できることが見つけられなが...
目標の振り返り② 今日の感想	・集中して話を聞いた	・集中して話を聞けなかった 崩なこともあった	・集中して話を聞けなかった 多くのがつかれた	・集中して話を聞けなかった 最後までできることやった
教員より				